

スポンサー一覧

オフィシャルスポンサー

株式会社イトウ/貝沼建設株式会社/豊田プレステージホテル/ネイシュー株式会社
ブレース・フィット合同会社/株式会社パロマ/明治安田生命保険相互会社
弁護士法人愛宕虎ノ門法律事務所/株式会社昭和商会/合同会社大正

ゴールドサポーター

株式会社テツコーポレーション/株式会社いずみパーキング/有限会社タキヤ
株式会社サンエス/株式会社ティーエーシー/株式会社ルイ高/株式会社ココレラボ

シルバーサポーター

株式会社東横イン名古屋名駅南/株式会社インダ建装/株式会社メニコン
マルヤス工業株式会社 フットボールクラブ/株式会社東青社/中京テレビ放送株式会社/
株式会社経理のけいちゃん/加茂商事株式会社/株式会社ピーアンドピー浜松
中央ライブ株式会社/株式会社エコフォレスト/有限会社至誠堂

特別協賛

岡谷鋼機株式会社/松屋地所株式会社 (FBC 知多ネーミングライツ)/株式会社津留建設工業 (FBC 知多横断幕)
貝沼建設株式会社 (FBC 知多看板・FBC 愛西ネーミングライツ)/おおすが整形外科 (FBC 知多看板)/司法書士法人わかば (FBC 知多看板)
株式会社テツコーポレーション (FBC 知多看板)/名鉄協商株式会社 (FBC 知多看板)

愛知県サッカー協会の活動は、地域企業の皆さまのご支援によって支えられています。サッカーの普及や選手の育成、大会の開催、地域イベントの実施など、さまざまな取り組みは企業の皆さまとの協力があるからこそ実現できるものです。スポンサー企業の皆さまは、単なる支援者ではなく、地域スポーツとともに育てる大切なパートナーです。サッカーを通じて子どもたちに夢を届け、地域の活力を高める取り組みを進めていくことは、地域社会にとっても大きな価値を生み出します。愛知県サッカー協会はこれからも企業の皆さまと連携しながら、サッカーの魅力を広げ、地域スポーツの発展と活性化に取り組んでいきます。今後とも温かいご支援とご協力をお願いいたします。

愛知県サッカー協会 施設案内

テラスポ鶴舞

(名古屋市鶴舞公園多目的グラウンド)

所在地:名古屋市
利用開始:2018年4月1日
施設内容:人工芝グラウンド2面(ウエストグラウンド、イーストグラウンド)
夜間照明:あり(LED)
駐車場:有料あり

※2025年9月 ウェストグラウンド人工芝張替え



松屋地所フレッチフィールド 緑広場

(FBC 知多)

所在地:知多市
利用開始:2021年10月4日
施設内容:人工芝グラウンド 1面
天然芝グラウンド 2面
夜間照明:人工芝グラウンド あり(LED)
駐車場:有料あり

※2025年8月 緑広場整備
(天然芝全面、フェンス)



貝沼建設 花はすフィールドあいさい

(FBC 愛西)

所在地:愛西市
利用開始:2024年4月1日
施設内容:人工芝グラウンド 1面
夜間照明:あり(LED)
駐車場:有料あり



公益財団法人 愛知サッカー協会
愛知県名古屋市瑞穂区洲山町2-21 啓徳名古屋南ビル5階
TEL.052-846-2320 FAX.052-846-2383
www.aifa.jp

AIFA Family

2026
vol.7

愛知県サッカー協会

サッカーが日常になる

愛知から広げる“フットボールのある暮らし”

愛知の 視点

- 1 AIFAの取り組み
- 2 AIFAインタビュー ～FAコーチ～
- 3 委員会それぞれの活動をご紹介
- 4 あいちフットボールフレンズ情報

愛知県
サッカー協会の
「note」ページはこちら

愛知県サッカー協会 note



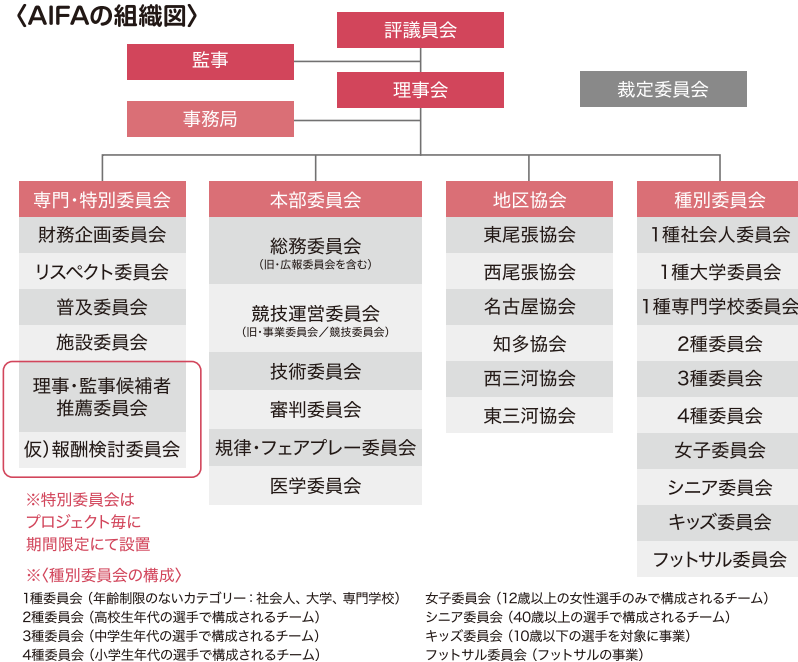
AIFAの理念(目的)

愛知県のサッカー界をまとめ、代表する団体として、サッカーの普及と発展に努め、豊かなスポーツ文化をつくり、県民の心身の健全な発達に貢献する

AIFAのビジョン

- サッカーの普及に努め、スポーツを身近にすることで、人々が幸せになる環境を作り上げる
- サッカーの強化に努め、県内のチーム・選手が日本および世界のトップレベルで活躍することで、県民に勇気と希望、そして感動を与える
- 常にフェアプレーの精神を持ち、あらゆる人々との友好を深め、心豊かな社会を築く

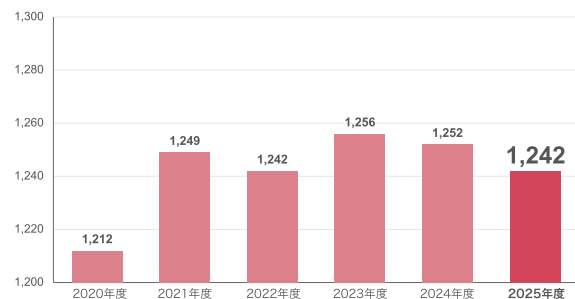
〈AIFAの組織図〉

AIFAの目標
2030

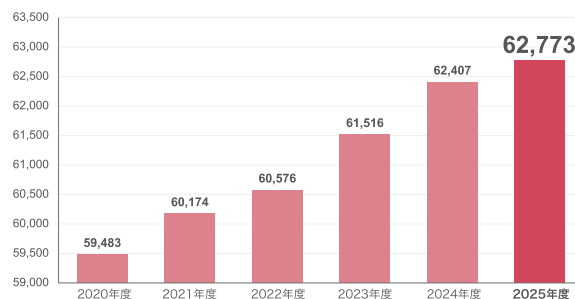
1. 愛知県の協会登録者数が8万人になる。
2. 県協会管理のフットボールセンターを4つ、フットサル施設を1つ保有する。
3. 愛知県の育成環境で育った選手が、サムライブルー及びなでしこジャパンとしてワールドカップに2名ずつ出場する。男子フットサルA代表に新たに2名、女子フットサルA代表に新たに1名選出される。
4. リスペクトの推進…「暴力・暴言を根絶する。」全チームにクラブウェルフェアオフィサーを配置する。

●愛知県サッカー協会 登録数の推移

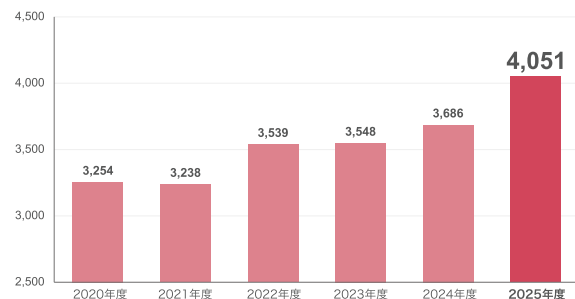
登録チーム数の推移



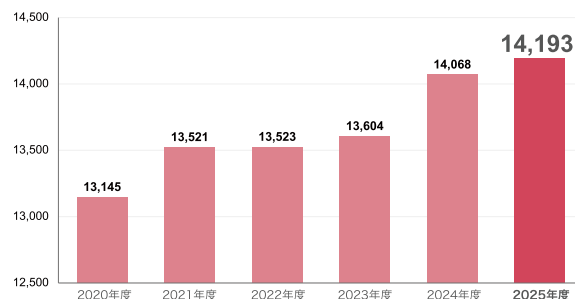
登録選手数の推移



指導者数の推移



審判員数の推移



※表は全てサッカー・フットサル合計

指導者の成長が、愛知県サッカーの未来を変える

スポーツである以上、勝利を目指すことは大切です。しかし育成年代では、「どう勝つか」という過程にも目を向ける必要があります。勝利だけを優先すると、限られた選手ばかりが出場し、選手が考えたり挑戦したりする機会が減ってしまいます。サッカーには状況を見て判断し、自ら選択する力が欠かせません。試合や練習の中でその経験を積み重ねることが、将来につながる育成だと考えています。小学生年代では、試合に出て失敗し、考え、再挑戦する経験こそが選手を成長させます。

選手の成長には、指導者の存在が大きく影響します。どこでプレーするか以上に、誰に教わるかが重要になることもあります。そのため愛知県では指導者養成に力を入れています。指導者も学び続ける存在であり、一人ひとりに成長の過程があります。指導者が変われば、選手への関わり方やトレーニングの質も変わります。選手たちがさらに高いレベルを目指すためには、指導者のレベルアップが欠かせません。

保護者には、子どもを見守る存在であってほしい

近年は保護者と子どもの距離が近くなっています。それは良いことですが、時にプレーの判断基準がコーチではなく保護者になってしまうことがあります。サッカーの専門的な部分はコーチに任せてほしいと思います。審判も選手も失敗します。しかし子どもたちは汗をかきながら自ら考え、判断し、挑戦しています。まずはその頑張りを認めてあげてほしいです。保護者にできる大切な役割は、支え、送り出し、成長を見守ることです。必要以上に口を出すのではなく、温かく応援する姿勢が大切だと考えています。

子どもたちにはサッカーだけでなく、さまざまなスポーツを楽しんでほしいと思っています。野球やバスケットボール、体操、ダンス、武道などを経験することで、サッカーだけでは身につけにくい身体の使い方や感覚を養うことができます。また、フットサルはサッカーに非常に有効です。狭い局面での判断力や技術、切り替えの速さなど、多くの要素がサッカーにつながります。大切なのは、選手も指導者も保護者も固定観念にとらわれず、多様な経験から学ぶ姿勢を持つことだと思います。

愛知県が目指すのは、世界で通用する人材の育成

愛知県の技術委員会では「Aichi's Way」を掲げ、世界で通用する人材の育成を目指しています。そのためには技術や戦術理解、フィジカル、メンタルなど総合的な力が必要です。しかし最も大切なのは、自ら考え、判断し、行動できる選手であることです。また、サッカーが上手いだけでなく、人として周囲から応援される存在であってほしいと思います。将来、愛知県で育った選手が指導者として戻り、次の世代を育ててくれることも理想の一つです。

愛知県からはこれまでも多くの優れた選手が育っています。活躍する選手たちに共通しているのは、技術だけでなく人としての魅力を備えていることです。学ぶ姿勢や向上心、周囲への感謝を持つ選手は自然と応援されます。日本代表でも団結力や感謝といった価値観が重視されています。実力だけでなく、人間性も評価される時代です。愛知県でも、サッカーの強化とともに人としての成長を大切にしたい育成を続けていきたいと考えています。

サッカーを通じて、未来につながる土台をつくる

これからの愛知県サッカーには、上位層を伸ばすことと同時に、グラスルーツや中間層を広げていく必要があります。トップの選手だけを伸ばせばいいわけではありません。サッカーに初めて触れる子どもたち、これから成長していく選手たち、指導者、審判、保護者、地域の環境。そのすべてがつながって、愛知県サッカーの未来がつけられていきます。少子化が進む中では、他競技とも協力しながらスポーツ全体で子どもたちを育てる視点も重要になるでしょう。愛知県には大きな可能性があります。サッカーを通じて、自ら考え挑戦できる選手、そして誰からも応援される人材を育てる環境を、県全体でつくってほしいと思います。

鈴木 理記 SUZUKI Masaki
AIFA/FAコーチ愛知県サッカーの
未来を語る

FAコーチが見つめる

選手育成とこれから

AIFA/FAコーチ 鈴木理記氏

私はAIFAでFAコーチ（技術専任者）として、選手の育成・強化をはじめ、指導者養成やサッカー環境全体の整備に携わっています。対象は幼児から社会人、女子サッカーまで幅広く、選手だけでなく、指導者や審判、保護者も含めた環境づくりを通して、愛知県サッカーの発展を支えることが私の役割です。

高校までは選手としてプレーし、その後は一度会社員として社会に出ました。当時はサッカーに関わる仕事を目指すことに反対の声もありましたが、その思いを諦めることはできず、指導者の道へ進みました。気が付けば20年以上が経ちましたが、社会人として培った人との接し方や経験は、現在の指導にも大きく生きています。プロ選手としての華やかな実績はありません。しかし、その経験がないからこそ、多様な視点から選手や指導者を見つめることができる。それが自分の強みだと感じています。

個性を見つめ、一人ひとりを伸ばす育成へ

愛知県の選手たちは全国的に見ても高いレベルにあります。特に走力や身体能力、キック力などの基礎能力は大きな強みです。人口が多く競争環境に恵まれているため、スピードやフィジカル、判断力など、それぞれに特徴を持った選手が育っています。一方で、人口規模を考えると、プロ選手や日本代表選手の輩出数にはまだ伸びしろがあります。愛知県が持つ大きな可能性を、さらに引き出していきたいと考えています。

これからの育成では、全員に同じ指導をするだけでは不十分です。選手一人ひとりの特徴や成長段階を理解し、それぞれに合った育成が求められます。同じ学年でも成長には大きな差があります。今の結果だけでなく、将来どのような選手になる可能性があるかを見据えて育てることが大切です。愛知県では個別育成の考え方を取り入れ、選手や保護者へのフィードバックも行いながら成長を支援しています。育成年代ではチームの勝利だけでなく、選手個人がどう成長するかを重視しています。

技術
委員会

世界トップ基準の選手育成・強化、指導者養成を通じて、選手・指導者一人ひとりの可能性を最大限に引き出す活動をしています。



●JFA公認Bライセンスコーチ養成講習会(愛知県FAコース)

近年のサッカー現場では、「個別育成」という視点がフォーカスされ、選手たちの強みや弱みだけでなく、内面にもはたらきかけながら、自発的に自己の成長曲線を描く、IDP(※)がトレンドになりつつあります。

しかし、それは選手だけではなく、指導者にも同様の考え方が当てはまるのではないかと考えられています。AIFAで行っているBライセンスコーチ養成講習会(愛知県FAコース)では、チューター(講師)がそれぞれの参加者の強みや弱み、悩みに寄り添い、実践ごとに掲げている「マイチャレンジ」や、日々の伸び代を大切にしながら講習会運営を行っています。これからの日本サッカーを支える選手たちの未来に触れている指導者に対し、より多角的にアプローチし、内面に入り込むことで、参加した指導者自身が「自己の成長」に繋げられるきっかけになることを目指しています。

※IDP (個別育成プラン/Individual Development Plan)

●スペシャルアカデミーU15

本活動は、県内の選抜された選手の育成及び強化を目的として実施しています。JFAコーチや名古屋グランパスのアカデミーコーチ、県トレセンコーチの方々に指導に当たってもらっています。特にFW(フォワード)とCB(センターバック)に特化したトレーニングの機会を設け、選手に少しでもよい刺激を与えることができるように工夫をしています。

その中で、選手のIDP(※)にも取り組んでいます。トレーニング前には選手一人ひとりにヒアリングを実施し、トレーニング後にフィードバックを行います。ヒアリングでは、自身の目標や強み、弱みを聞き取り、選手個々の課題意識の把握に努めます。フィードバックでは、選手との対話を重視しながら、今後どのようなことにチャレンジしていくとよいのかを整理していきます。

選手個々に寄り添いながら、選手が自身の目標に対する現在の自分の位置を整理し、次のチャレンジへの見通しが持てるように働きかけることを重視しています。



医学
委員会

ドクター部会、トレーナー部会、薬剤師部会で構成されており、大会救護スタッフの派遣、JFAスポーツ救命ライセンス講習会開催、愛知サッカー医科学フォーラムの開催、国スポ、県トレへのトレーナー派遣などの活動をしています。



●第11回 愛知サッカー医科学フォーラム

選手・指導者・保護者・医療従事者など、サッカーに関わるすべての方を対象に「愛知サッカー医科学フォーラム」を開催しています。第11回は「熱中症対策」をテーマに、予防方法や初期対応、現場で実践できる対策について専門家が講演を行いました。安全で安心なサッカー環境づくりを目指し、今後も医科学情報の発信と普及活動に取り組んでいきます。

●スポーツ救命ライセンス講習会

サッカー現場で発生する傷病や緊急事態に適切に対応できる人材育成を目的として、スポーツ救命ライセンス講習会を開催しています。心肺蘇生法(CPR)やAEDの使用方法に加え、スポーツ現場で起こりうる外傷や熱中症への対応について実技を交えて学びます。選手の命と安全を守るため、今後も救急対応体制の充実に努めていきます。

審判
委員会

県内の審判員の育成・指導、競技規則の運用・伝達を担い、また、審判員の養成・育成を目的とした講習会・研修会を開催しています。



●AIFAレフェリー勉強会

審判委員会では初心者や再開者、上級を目指す方を対象に「AIFAレフェリー勉強会」を開催しています。2025年度は愛知県フットボールセンター知多にて、2回実施され、中学生からシニアまで幅広い年代の方にご参加いただきました。第1回はJFAとタイアップし、プロや1級審判員らを講師に迎えた実践指導を行いました。第2回はAIFA審判インストラクターの指導のもと、フラッグの上げ下げやオフサイド判定など副審のブラクティカルトレーニングを行いました。

●飛騨古川フレッシュレフェリースクール

2026年5月3～5日に2泊3日でU-13の交流大会を利用し、研修会を行いました。今年度は、13歳～19歳の審判員がエントリーし、愛知県から7名(内女子1名)・他県(茨城県・三重県・岐阜県)から3名がレフェリースクールに参加しました。この研修会では「対角線式審判法」をテーマとし、失敗を恐れずチャレンジしようと全員がしっかりと取り組んでいました。大会では実技研修でインストラクターによるアドバイスや、夜には研修会を行い座学にて知識を身につけました。この研修では、審判員同士で宿舎を共にするため、共同生活でのコミュニケーションによりとても良い関係性ができたように思います。大会が無事に終了するとともに、参加審判員の成長した実感を得て研修を終了できました。今後は、それぞれの審判員が大きく成長することに期待しています。



シニア
委員会

いつまでも元気にプレーできる“生涯現役”のサッカー環境を目指し、40歳以上(O-40～O-65)を対象にリーグ戦や大会などを開催しています。



●JFAシニアサッカークリニック

3月21日(土)、ウェーブスタジアム刈谷にて「JFA シニアサッカークリニック in 愛知」を開催いたしました。今回のクリニックでは、生涯現役を目指すシニア選手を対象に最高齢74歳を含む、50代～70代までの計55名が参加いたしました。

講師には、元サッカー日本代表の永島 昭浩 氏と茂庭 照幸氏の2名をお招きし、仲間とボールを蹴る楽しさや学ぶ面白さをお伝えいただきました。ウォーミングアップでは、考えながら動く難しさに思わず笑ってしまう場面もありましたが、参加者の皆さんは終始真剣に耳を傾け、一つひとつのプレーを確かめるように取り組みました。楽しく体を動かしながら、サッカーの楽しさを心から感じられる、笑顔あふれる充実した時間となりました。

キッズ委員会

「巡回指導」「フェスティバル」「キッズリーダー講習会」「キッズアカデミー」を主として、一人でも多くの子供たちが、サッカーを好きになってもらえるよう活動しています。



●AIFAキッズサッカーフェスティバル

卒園を控えた年長児(U-6)を対象に毎年3月に開催する愛知県独自のサッカーフェスティバルです。チーム交流戦を通じて仲間と協力する楽しさやチャレンジする喜びを体験し、卒園前の思い出づくりと小学校年代への橋渡しの場となっているイベントです。高校生ボランティアスタッフが運営をサポートし、子どもたちの活動を支えています。

●JFAユニクロサッカーキッズ

JFAと都道府県サッカー協会が全国で開催する、未就学児向けのサッカーフェスティバルです。暑さや天候を気にせずプレーできる室内会場「バンテリンドーム ナゴヤ」を会場に、サッカー経験の有無を問わず多くの子どもたちが参加します。2025年度は、計1,200人名のキッズにご参加いただきました。当日は日本代表OBが「キャプテン」として子どもたちと一緒にプレーすることもあり、サッカーの楽しさや憧れに触れられる特別な1日となっています。



女子委員会

大会参加に限らず、女性がサッカーを始めるための活動、続けるための普及活動を積極的に行っています。また、女性指導者、女性審判員やマネジメントができる人材の発掘や育成にも取り組んでいます。



●AIFA×谷川萌々子選手サッカークリニック

2025年12月27日にグリーングラウンド刈谷にて、AIFA×谷川萌々子選手によるサッカークリニックを開催しました。谷川選手は、愛知県出身で、なでしこジャパンの注目選手として活躍しています。今後も日本女子サッカーを担う選手として大きく期待が寄せられています。クリニックでは、谷川選手が実際にシュートのデモンストレーションを行なったほか、参加者と一緒にゲームにも参加をしてもらい、イベントに関わったすべての人にとって、心に残る刺激的なイベントとなりました。

●JFA女子サッカーデー

JFAでは、3月を女子サッカー推進月間としています。2025年度は、2026年3月8日に元なでしこジャパンの宮間あや氏を招いたグラスルーツフェスティバル「JFA女子サッカーデー2026愛知in刈谷」を開催しました。小学生の女子を対象に、初心者から経験者までが世界的プレイヤーの指導を直接受けられる貴重な機会となりました。フェスティバルでは、大学生のサポートのもとで参加者たちが元氣いっぱいボールを追いかけて、技術を高め合うとともに、サッカーを純粋に楽しむ笑顔があふれるイベントとなりました。



あいちフットボールフレンズ



あいちフットボールフレンズとは？

愛知県サッカー協会に所属する名古屋グランパス(男子サッカー)・名古屋オーシャンズ(男子フットサル)・朝日インテック・ラブレッジ名古屋(女子サッカー)3クラブが連携して、フットボールを愛する方の輪を広げていく活動を行っています。

■概要

愛知県内にホームタウンを置く、各フットボールカテゴリーのトップクラブが連携して、愛知県内のフットボールを観て応援していただく方、フットボールのプレーを楽しむ方を増やし、フットボールを愛する「フットボールフレンズ」の輪を広げていくプロジェクトで、2019年5月に発足しました。

■参加クラブのご紹介

① 名古屋グランパス



名古屋市、豊田市、みよし市を中心とした愛知県全域をホームタウンとするプロサッカークラブ。1993年Jリーグ開幕に合わせて、1991年に名古屋グランパスエイトの名称で創立。2008年に現在の名古屋グランパスに改称された。グランパス(GRAMPUS)は英語で名古屋のシンボル「鱈(しゃちほこ)」を意味する。これまでリーグ優勝1回(2010)、天皇杯優勝2回(1996・1999)、JリーグYBCルヴァンカップ優勝2回(2021年、2024年)

詳細やクラブの最新情報はHPでCHECK!! URL: <https://www.nagoya-grampus.jp/>



2026/27シーズン
明治安田J1リーグは、
8月上旬に開幕！
チームは、7月1日より
始動です。



©N.G.E.

② 名古屋オーシャンズ



名古屋市をホームタウンとする日本初のプロフットサルクラブ。2007年日本フットサルリーグ「Fリーグ」発足に合わせて、2006年4月に創立。チーム名「オーシャンズ」には、海を越え世界へはばたいて行きたいという意味がこめられている。

これまで、AFCフットサルクラブ選手権優勝4回(2011・2014・2016・2019)、Fリーグカップ優勝12回(2010～2014・2017～2019・2022・2023・2024・2025)、Fリーグ優勝17回(2007～2015・2017～2023・2025)、全日本フットサル選手権大会優勝6回(2013～2015・2018・2019・2024)

詳細やクラブの最新情報はHPでCHECK!! URL: <https://www.nagoyaoceans.com/>



メットライフ生命
Fリーグ2026-27
5月31日より、
12月20日まで
レギュラーシーズン
開催中！



③ 朝日インテック・ラブレッジ名古屋



愛知県・名古屋市をホームタウンとする女子サッカークラブ。1995年に、名古屋グランパスジュニアレディーズとして発足。その後、「名古屋FCレディーズ」として長く活動し、2017年から「NGUラブレッジ名古屋」、そして2022年から「朝日インテック・ラブレッジ名古屋」に名称を変更。ラブレッジとは、愛「LOVE」と知「KNOWLEDGE」を合わせた造語。2021年より、なでしこリーグ1部に参入し、2025年になでしこリーグ1部初優勝を成し遂げる。これまで、なでしこリーグ1部優勝1回(2025)

詳細やクラブの最新情報はHPでCHECK!! URL: <https://loveledge.jp/>



2026プレナス
なでしこリーグ1部
3月14日より
10月25日まで
開催中！



©LOVELEDGE

■あいちフットボールフレンズ／キャプテン

「あいちフットボールフレンズ」プロジェクトをより多くの方に知っていただき、その旗頭となってプロジェクトを推進するリーダーとして名古屋グランパスのGKコーチである 榎崎正剛氏がキャプテンとして活動しています。

〈榎崎キャプテンよりコメント〉

「あいちフットボールフレンズ」のミッションである、「人々に非日常の感動や興奮を与え、フットボールでひとつになる」に向かって、より一層名古屋グランパス、名古屋オーシャンズ、朝日インテック・ラブレッジ名古屋の各クラブが連携し合い、愛知県を盛り上げていきたいと思っています。



©N.G.E.

■主な活動

- 相互クラブの広報活動の支援
- グランパスホームゲームでのコラボステッカーの配布
- クラブ間のボランティア交流やスタッフ交流など



©LOVELEDGE